千葉大学ぬいぐるみ病院

報告書(2009.9)

千葉大学２年　工藤 渉

世界各地、日本全国で行われているぬいぐるみ病院を一昨年より千葉大学でも実施させて頂いております。今年も数多くの方々のおかげで３回目を実施することができました。ご協力頂いた先生方や学生の皆さん、本当にありがとうございました。ここに、今年度のぬいぐるみ病院を報告させて頂きます。

■実施概要■

期日：2009 年 9 月 9 日（水）
　　2009 年 9 月 11 日（金）
場所：千葉大学教育学部附属幼稚園
対象：年中 59 人

■参加者■

≪医学部≫
４年生：6 名、３年生：2 名
２年生：8 名、１年生：5 名
≪看護学部≫
２年生：2 名、１年生：7 名

■実施までの流れ■

１２月：幼稚園にて代表引き継ぎの挨拶、第３回目実施の初回打ち合わせ
～４月：メールにて幼稚園との話し合い
４月～：中心メンバーにて話し合い開始
～６月：メーリングリストにて参加者募集・説明会
７月中旬：筑波大学ぬいぐるみ病院見学
８月中旬～：模擬診察の練習・保健教育の準備
８月下旬：ぬいぐるみ総会参加

■模擬診察■

○当日の流れ

当日は集会室をお借りし、次ページ図１のような配置でぬいぐるみ病院を設置した。

園児の流れとしては、
①各組の保育室から６、７人ずつ誘導の学生の案内よりぬいぐるみ病院受付へ
②受付にて、園児の名前やお友達（ぬいぐるみ）の名前などをカルテに記入
③診察室に呼ばれるまで受付にて病院に関するお話
④看護師の誘導で診察室へ
⑤レントゲンや薬局にも行く（誘導は看護師）
⑥診察が終わり次第、アンケートへ
⑦各組の保育室へもどる
というもの。

○各部屋の内容

①受付

診察ブースとは別に受付を設ける。
上図のように机と椅子を配置し、学生と園児が向かい合わせになるように座る。ここ

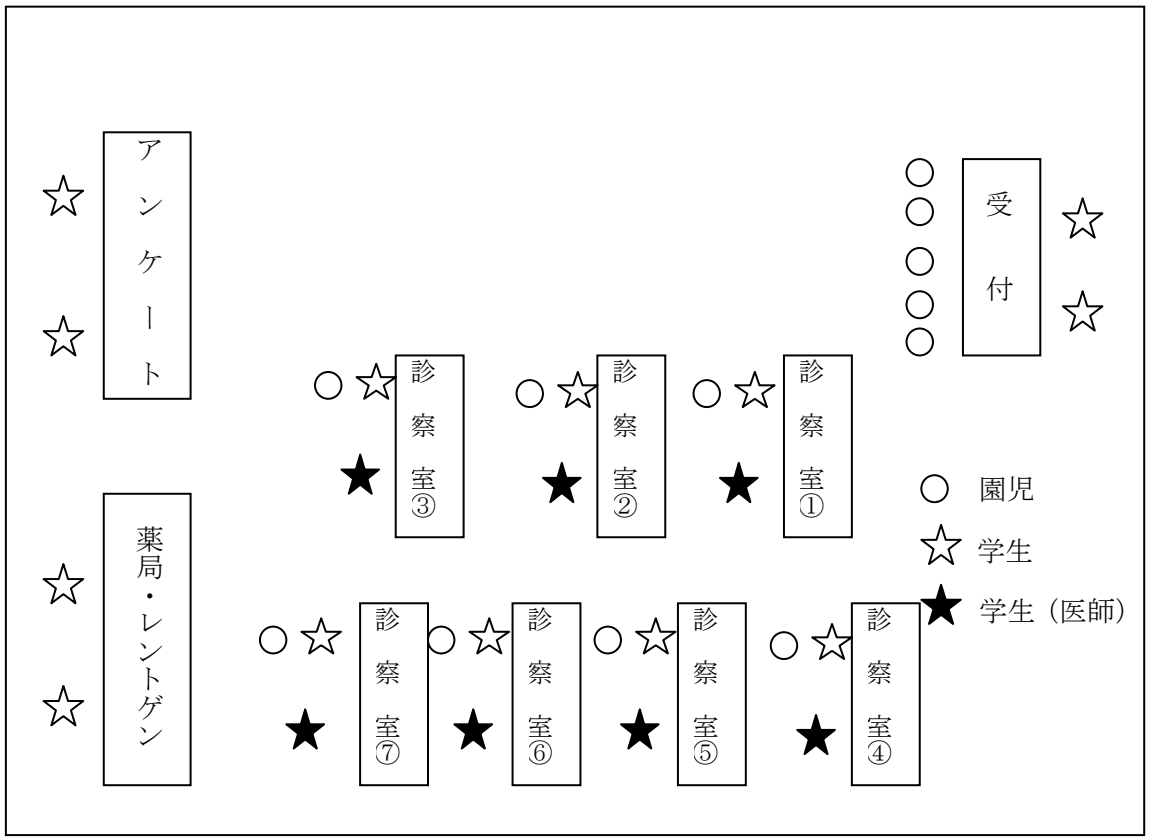
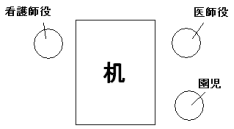


図１

で、園児が持ってきたぬいぐるみと園児自身の名前、ぬいぐるみの病気の主訴を聞き、カルテに記載する。園児の参加人数が少ない場合は、ここからすぐに診察室に入ってもらう。

待ち時間の間、イラストを用いて学生が病院に関するお話・クイズを行う。

②診察室



診察室の中には左記のようなブースを７つ作る。

子供の考えてきた症状をもとに器具(特に体温計と聴診器)を用いて診察する。診察時、その診察の意義を説明する。また、聴診器の説明の際には子供自身の心音を聴いてもらう。最後に診断結果を伝え、ぬいぐるみの看病をする代わりに自分も同じようなこ

とに気をつけるように約束する。カルテ、レントゲン画像をブースに置いてある封筒に入れ、園児に持たせる。

③薬局、レントゲンブース

必要に応じて薬の処方、レントゲン撮影を行う。

④アンケート

診察を終えた園児に対して簡単なアンケートを行う。

質問項目は以下の通り。

・今日は楽しかったですか？

・お友達の病気は良くなりそうですか？

・これなんだか分かるかな？

（聴診器と体温計）

・何が楽しかった？
　何か怖そうだったものある？
・またやりたいですか？

○今回の模擬診察を実施するにあたり注意した点

・ブース数

今回、学生の人数が昨年までより多く、ブース数が多く用意できた。最高で７ブースでしたが、常に７ブースで行うのではなく、一回の誘導で連れてくる園児の数に合わせて６ブースか７ブースでやるのかをその場で臨機応変に対応することができた。

・時間配分と役割交換

ブース数が多かったため、園児を連れてくる時間、それぞれの診察の時間をきっちり決め、タイムキーパーを置きその時間の中で診察を行うことができた。時には時間が押してしまうこがあったが、誘導の時間を若干早めるなどして調節し、最終的には時間通りに終わることができた。また、診察をする時間をしっかり決めたので、途中で学生の役割の交代を行った。時間的余裕があったので、この役割交換もスムーズに行うことができた。

・園児に渡すもの

今回、園児に渡すものとしてはカルテと、内科系ではお薬、外科系ではレントゲン画像など、こまごまとするものが多くなるため、それらを封筒に入れて持って帰ってもらうようにした。途中ではあったが、その封筒に園児の名前を書き、無くさないようにした。

・会場作り

今回、７ブースとブース数が多く前回のようにそれぞれの診察室を完全には仕切ることができなかったが、園児の座る向きや学生が座る位置に配慮し園児の集中力が他にそれないようにした。また、小児科をイメージしてイラストやキャラクターの絵を使い装飾した。

■主な主訴・園児アンケート■

○ぬいぐるみの主訴

【９月９日　ほし組】

［内科系］

頭痛３人、腹痛１３人、のどの痛み１人、発熱６人、せきが出る１人

［外科系］

腕の骨折１人、脚の骨折１人、頭の骨折２人、手１人、脚１人、頭２人、背中１人、眼１人、耳１人

［その他］

やけど１人

【９月１１日　ゆき組】

［内科系］

頭痛１人、腹痛１人、のどの痛み１人、発熱７人、鼻水１人

インフルエンザ４人、かぜ１人、結核１人

［外科系］

脚の骨折１人、頭の骨折１人、脚１人

［その他］

お尻が痛い１人、背びれが痛い１人

○園児アンケート結果

【９月９日　ほし組　30 人が回答】

①今日は楽しかったですか？

はい：３０人

いいえ：０人

②ぬいぐるみの病気は良くなりましたか？

はい：２６人（良くなりそう、少し、もう少しで）

いいえ：１人

その他：３人

③これなんだか分かるかな？

両方わかった：１６人

聴診器のみ：１人

体温計のみ：１０人

分からなかった：３人

④何が楽しかった？怖かった？

〈楽しかった〉

聴診器　１２人、薬　８人、包帯　５人、レントゲン　３人、治ったこと　２人

その他　１人

〈怖かった〉

注射　１人、レントゲン　１人

⑤またやりたいですか？

はい：２８人

いいえ：１人

わからない：１人

【９月１１日　ゆき組　29 人が回答】

①今日は楽しかったですか？

はい：２９人

いいえ：０人

②ぬいぐるみの病気は良くなりましたか？

はい：２０人（良くなりそう、少し、もう少しで）

いいえ：１人

その他：４人

③これなんだか分かるかな？

両方わかった：２５人

体温計のみ：１人

分からなかった：３人

④何が楽しかった？怖かった？

〈楽しかった〉

体温計　５人、包帯　２人、聴診器　１人、薬　１人、その他　１人

〈怖かった〉

なし

⑤またやりたいですか？

はい：２２人

いいえ：３人

わからない：４人

■保健教育■

○概要

各保育室に『からだけんきゅうじょ』を設置した。（９日：ゆき組、１１日：ほし組）お話を聞きたい園児に対して、「体の仕組み」「応急処置」に関する保健教育を行った。また、そのお話の間は「耳」「心臓」「骨」「神経」について説明できる画用紙を置いておき、興味のある園児に説明できるようにした。

○体の仕組み

「からだしろう君」という臓器が外から見え、取り外すことのできる人形を用いて園

児たちの前で臓器の説明をした。まず園児には取り外した臓器をからだしろう君に貼り付けてもらい、その後、画用紙を用いて内臓の働きを説明した。

○応急処置

紙芝居を用いて、応急処置方法の説明した。どのようにすればよいかを一方的に話すのではなく、二者択一形式で園児に聞いてみたりもした。主な状況としては、「すり傷」「鼻血」「目に異物」「やけど」について。

■アンケート結果■

○学生アンケート

①現時点において目的をどの程度達成できたと思いますか？

１（できない）２（あまりできない）３（変化なし）４（少しできた）５（できた）

[1]幼稚園生に自分の体や健康について興味を持ってもらう

4.07

[2]医療に対する恐怖心を取り除く

4.19

[3]子どもに病気を説明するスキルを身に付ける

3.93

②どのようにしたら、さらに目的を達成できると思いますか？

・さらに練習する（模擬診察の）　５人

・子供にどのように説明すればよいかを準備段階から考える　３人

・定期的にぬいぐるみ病院を実施する　２人

・小児医療に関する知識や病院のイメージを把握する　２人

・もっと診察する　２人

・沢山の園児と触れ合う　２人

・園児相手で経験を積むしかない　２人

・コミュニケーション能力の向上　２人

（以下、１人ずつ解答）

・ぬいぐるみから人間の体について連想しやすくする

・色々な状況に応じた対応の練習を積む

・目標をはっきりさせる

③ぬいぐるみ病院を継続して行っていく場合、どのような点を改善したらよいと思いますか？

・装飾・見た目の改善　３人

・薬の形状　３人

・時間の融通がもっときけばよかった　２人

（以下、１人ずつの解答）

・色々な人に興味を持ってもらう

・診察の場でも園児に何かしら体験できる場を作れたらよい

・保健教育と模擬診察をリンクさせる

・幼稚園の先生方から子供との接し方のア

ドバイスを聞く

・回数を増やす

④保健教育に関して、改善点など

・ないぞうミエール君は難しい　２人

（以下、１人ずつの解答）

・保健教育のバリエーションを増やす

・「応急処置」の説明の後、けがをした子が早速水で流していた

・説明が自己満足になるところがしばしばあったかもしれない

○保護者アンケート（４２名から回答）

①今回のぬいぐるみ病院の後、お子様に変化はありましたか？

はい　　３３名

いいえ　　９名

②具体的にはどのような変化でしたか？

・ぬいぐるみをいたわったり薬を飲ませたり、ケアをしていた　１３人

・体の事に興味を持つようになった　５人

・身体の仕組みなどを話してきた　４人

・症状などを説明してくれた　３人

・肝臓の話をしてくれた　１人

（その他多数のお話を書いて頂きました）

③家でぬいぐるみ病院に関して、子供から発言などありましたか？

・楽しかった　２６人

・診察内容、お約束を話してくれた　５人

・またやりたい　４人

・臓器について話してくれた　３人

・お医者さんになりたい　１人

（その他多数のお話を書いて頂きました）

○先生方へのアンケート

①今回のぬいぐるみ病院の後、園児に変化はありましたか？

→はい

②具体的にはどのような変化でしたか？

・あまり使っていなかったぬいぐるみをままごとで使うようになった

・次の日に病院ごっこが始まり医者役、患者役にわかれて遊んでいた

③保健教育全体に関して、良かった点・改善点などは？

・臓器の説明で子供にはわかりにくいものもあった。子供の実態にあったものを選択すると良い

④全体を通して良かった点・改善点などは？

・保健教育で行った応急処置の仕方をすぐに実践している子がいた

・子供に配布するものにはできるだけ記名する

・広いスペースを有効に使えていたし、各ブースに動物の名前をつけていたのはよかった

■考察・今後に向けて■

◎ブース数・シフト制

　今回は学生の参加人数が多く、タイムキープも比較的容易であった。そのため、園児１人１人にかける時間が多めにとれ、学生も気持ちの面で余裕を持って診察に臨めたと思う。ブースを最高で７ブース作れたので、一回に連れてくる園児の人数が多少予定とは異なっていても柔軟に対応できた。また、両日とも前半と後半で役が変わるようにシフトを組み、１人１人が違った役をこなし、それぞれの立場で園児に接するこ

とができた。役が違えば当然接し方も違ってくるので、良い経験になったと思う。各診察室に番号ではなく動物の名前をつけたのを初め、全体的に良い空間作り・雰囲気作りはできたのではないか。

◎模擬診察の一連の流れについて

上記の通り、ブース数を確保できたので、練習からその時間を意識して行うことができた。ただ、昨年の反省にもでていたが、診察パターンのバリエーションが少なく、一定になってしまった。今回主訴としてあげられたものからいくつか診察のバリエーションを考えられたらよいと思う。それ以外にカルテを手作りしたり、診察として行ったものをシールとして貼ったり、子どもの緊張をとくような工夫をした。

大きな流れとして、１５分を１組に当てることができ、少し時間がかかってしまう園児にも時間内に対応することができた。

◎園児に持って帰ったもの

園児に持って帰ってもらうものをひとまとめにしたことで、散らかしたり無くしたりしないようにした。今回、内科では薬、外科ではレントゲン画像を持って帰ってもらったが、家で振り返る時に思い出しやすくするため、説明しやすくするために持って帰ってもらうものを増やした。保護者の方々へのアンケート結果でも診察で用いたもの（カルテやお薬など）の説明をした、という回答が複数あったので、効果はあったと思う。ただ、園児に何かしら持って帰ってもらう場合には必ず名前を書くようにすべきとの反省があった。これは今後気をつけていきたいと思う。

◎保健教育について

保健教育は、園児がずっと聞いているだけにならないように、パズルであったりクイズであったりなど、園児も参加できるような工夫をとったので園児の食いつきもよかった。反省点としては内容が多少難しかったのと、園児の集中をずっとこちら側に向けていられなかったがあげられる。園児の集中を向けるためには、保健教育を行っている人もそうだが、周りの学生がしっかりサポートすることが大切。多少難しい内容であっても、周りから園児を取り込んでいけば変わってくると思う。内容に関して、今回は「体の仕組み」「応急処置」を行ったが、体の仕組みは少し難しかったという反省が多い。一方で、保護者のアンケートを見ると、ご家庭の方で臓器の説明など体について話をしているのが多かった。私たちが思っている以上に、園児たちには伝わっていたのではないかと思う。応急処置については、保健教育終了後、早速その処置方法を行っていた園児がいたという報告があり、効果があったのではないかと思う。紙芝居を用いたが、時間配分、内容、園児の食いつきなどを見ながら、内容を少し変更するなど柔軟に対応できた。

◎保健教育実施後の変化

応急処置は実施した直後に上記の通り園児に変化が見られた。また、体の仕組みに関しては家で家族の人に説明したりしている。今後もこのように内容や変化の現れ方の違うものをおりまぜて実施していきたい。例えば、前者では手洗い・歯磨きの仕方、生活リズムなど、後者では体の仕組み（消化器系を中心に）、食べものの栄養、排便についてなど。先生方のアンケートにもあったが、園児の実態を考え、それにあったものを行えたらよいかと思う。

◎当初の目的に照らし合わせて

全体を通して、当初の私たちの目的である、園児に体について興味を持ってもらう、ケアの気持ちを持ってもらう、恐怖心を無くすなどは達成できたのではないかと思う。学生が子供に医学的知識を説明するスキルを身につけるというのは各個人によってしまうが、今回の体験を活かしていけば達成されるだろう。

◎今後について

アンケートでは、体に興味をもつようになった、臓器の説明をしてくれたなど成果があった回答が多数あったがこれは実施直後の回答であるので、さらに経過をみるためにも年内に多くの実施をすることが望まれる。そうすることで園児にもより刺激を与えるようになり、私たち学生側にとっても園児に接するスキルを向上させる経験になると思う。いきなり、回数をかなり増やすのは難しいと思うので、少しずつ、何らかの形で回数を増やせていけたら、と思う。また、他大学では年に複数回ぬいぐるみ病院を実施しているところが多数あるので、そこに参加させていただくか、見学させていただければスキルの向上につながるであろう。

最後になりましたが、千葉大学附属幼稚園の先生方、ほし組・ゆき組の幼稚園生及び、保護者の方々、本当にありがとうございました。また、筑波大学ぬいぐるみ病院の方々、ぬいぐるみ総会でお世話になった方々、諸先輩方、ありがとうございました。数多くの方々のおかげで無事に第３回のぬいぐるみ病院が成功したと思います。

今後ともよろしくお願いします。

２００９年１０月　千葉大学医学部医学科２年　工藤渉